

沖縄子どもの未来県民会議
令和5年度第1回総会（議事概要）

日時 令和5年7月11日（火）14：00～15：30

場所 沖縄県市町村自治会館 2階ホール

1 会長あいさつ

2 報告事項

(1) 令和4年度収支決算及び監査報告について

（事務局説明）

（監事による監査報告）

<質疑なし>

(2) 令和4年度事業実績及び評価等について

（事務局説明）

<質疑応答等>

（県医師会）

給付型奨学金について、令和4年度を除いて退学者が1割以上となっているが、その理由と、今後どのような努力で退学者を減らすのか。

（事務局）

給付型奨学金事業は、にじのはしファンドと協力しながら事業を実施している。社会的擁護の下にいた子どもたちが施設を退所すると、生活費等の問題があり、自ら生活費を稼がないといけない等の状況の中で進学している。その中で学業の継続が困難になったことで退学者が出てしまった。

そういった子どもたちについても、にじのはしファンドと支援を継続していく。

（県特別支援学校 PTA 協議会）

給付型奨学金や各大学独自の奨学金の採用情報について、県からの情報提供を各県立学校やその他高校等に提供してもらいたい。

おきなわこども未来ランチサポートについて、輸入食材価格の高騰が見込まれるが、比較的価格が安定している県内産の食材を安くできないか。また、県産食材の安定供給のために、気候に影響されず雇用を増やすことや自給率を上げるためにも、オランダの生産方法等を研究（参考に）してみてもどうか。

（県民会議会長）

進学関連の情報提供については、事務局で検討を進めていきたい。

ランチサポート関連は、県でも情報収集を行っていく。

(3) 県外大学等進学サポート事業に関する報告

(事務局説明)

<質疑応答等>

(県児童養護協議会)

県民会議の寄付によって子どもたちが進学に希望を持っている。16年間施設で育った子が看護学校現役合格するケースもある。子どもたちが卒業までできるような長期的な展望が必要。最近では、措置延長の議論もなされており、施設や里親の下から通学し、卒業するまで県がしっかり応援できるような体制だと助かる。県が経済的な面で心配しなくても前に進めるように後押しやはっきりとしたメッセージを出していただけるとよい。

(非特定営利法人珊瑚舎スコーレ)

普段、小中学生の高校進学への無料塾を委託されて活動しているが、進学先について、親の負担を考えて、最初から徒歩圏内や自転車通学ができる範囲決めて選択肢を狭めてしまっているケースもある。親の経済的負担が進学先の決定のネックになっている子どもたちも多いと思う。

また、受験時の費用補助について、不合格になったがチャレンジしてよかったという回答は、とても大きい意見だと思う。この事業を続けてほしい。

(4) 令和5年度収支予算及び事業計画について

(事務局説明)

<質疑応答等>

(県特別支援学校PTA協議会)

フードバンク事業について、企業は支援をしたいが距離が遠いということか。県内の場合、名護から那覇行きのバスの荷物スペースを借りて農作物を運ぶなどの工夫でコスト安くなるのではないかな。

(事務局)

県外企業からの食糧支援についての予算なので、船などの配送費が必要になる。

県内についてはしっかり対応しているところだが、情報提供はありがたい。

(県議会)

金額の単位を確認してほしい。また、企業団体の寄付金の適用欄の企業についても単位が正しいのか説明を求める。

(事務局)

円単位での報告である。また、適用欄については、サポーター会費のところだと思うが、企業団体は年12万で25口、個人のサポーターは年1万2千円で300口を予定している。

(5) 子どもの貧困問題に対する各団体の取組状況について

(事務局説明)

< 質疑応答 >

(県特別支援学校 PTA 協議会)

朝 7 時台の糸満から小禄までのバスの区間急行や直行便があれば、バスからモノレールに繋ぎやすくなるのではないかと。

(事務局)

バスやモノレールの乗り継ぎに関しては重要なので、関係部署と連携を取りながら利便性向上できるよう連携していきたい。

3 感謝状贈呈

- ・株式会社琉球銀行
- ・公益財団法人沖縄県畜産振興公社
- ・パシフィックゴルフマネジメント株式会社
- ・琉球海運株式会社

4 議事事項

(1) 子どもの未来を応援するメッセージ(案)について

(事務局説明)

< 質疑応答 >

(県農業協同組合中央会)

メッセージの一番上にある「支援を必要とする家庭が…」というところについて、アンケート結果でも、親に対しても情報提供が欲しいとあった。普及啓発のイベントを増やすだけでなく、本当に親まで情報が行き届くように啓蒙を工夫し、確実に情報が届くように工夫してほしい。

(事務局)

普及啓発事業においては、「子ども未来サイト」を立ち上げ、市町村や県が実施している支援にアクセルできるようにしている。現在、ページが重い等について改善・改良を進めている。

今後、リーフレットやカード等に QR コードを添付し、市町村や学校、社会福祉協議会などの窓口を設置してもらい、支援に繋げていく取組みなどしっかり対応していきたい。

(会長)

後日、会員、各学校、関係機関等に配布する。

(県小児保健協会)

文章に表せても実際にやることは難しい。個人情報保護等の影響で、本当に貧困で悩んでいる子ども達を把握できないまま成長し、ハイリスクになって気づく。ハイリスクだけをフォローしていると、いつまでも将来的なハイリスクをフォローできず、リスクを断つことができない。個人情報保護とそれぞれの家庭状況をうまく掴み、本当に真剣に考えな

いと貧困率は減っていかない。具体的に政策に結びつけてほしい。

(事務局)

子ども達に支援を繋げていくことが重要だ。各市町村において国の事業を活用した貧困対策支援員が県内で112人配置されている。貧困対策支援員と学校、社福協等と連携し、しっかりと支援できるように繋ぎという取組をしている。今後もより強化しながら対応していきたい。

(県児童養護協議会)

メッセージは、やっていることを書いているだけで率直にわかりづらい。貧困を打ち砕くためには、どのような人でも勉強すれば進学、資格取得できるということをメッセージに込めてほしい。そう読めるメッセージが見当たらないので、沖縄のみの事業であることを盛り込んでほしい。

(事務局)

具体的には盛り込んでいないが、大きな考え方として意見のあった内容はメッセージの中の4の「夢と希望を持って…」の中に教育支援を含めた支援を我々は行っていく。

(沖縄産業開発青年協会)

県民会議での事業目的は自立するために生活できる子ども達が対象であると思われる。一定程度社会を生き抜くための協調性、粘り強く物事をやっていく力を就職するまでに見つけていくことが非常に大事なことはないか。進学、就職等にしても、生きる力のベースをしっかりと支えていくことからやった方が良いのではないかと考える。色々な支援を検討する中で子どもたちの基本的なところをしっかりと支えてほしい。進学のみならず人を育てるところから検討いただけないか。

(会長)

ありがとうございます。

(珊瑚舎スコーレ)

メッセージ2の内容は、普段支援していて、この言葉は本当に大事だと思っている。具体的な考えを聞きたい。

先にあった中退者が一定数いる。高校に在籍していない高校の年齢の子や小中学校の無料塾の元塾生の中でそういった状況の子ども達も抱えている。塾に在籍してないが元塾生という形で支援を続けていきたいが、「法的な切れ目がない」というところで実感がないので具体例を教えてほしい。

(事務局)

ライフステージに即した切れ目のない支援はとても幅が広い。小学生には児童クラブの利用料支援、経済的に余裕のない家庭の子ども達に対して無料塾といった教育環境を作る取組み。また子どもの居場所は市町村が国の制度を活用し、食支援のみならず生活支援、学習支援も実施している。中学、高校と年齢が上がっていくと不登校も多くなる。不登校者数を抑える観点から中退率の高い高校に居場所を設置している。実際に支援員が相談に対応し子ども達が就学できる環境を作るよう取り組んでいる。皆様の意見などを聞きながら事業の追加、強化等対応していきたい。

(NPO 法人エンカレッジ)

子どもの居場所等、学習支援の委託を受けて行っている。その他に私達はNPOとして委託ではなく、高校生年齢の子ども達の居場所として自主的に拠点を設けて支援をしている。NPO団体等が活動していけるような支援者側の基盤、地盤の強化等も考えていただければ助かる。

(会長)

皆様から頂いたご意見等を参考に子どもの未来を応援するメッセージ案には「生きる力」などの言葉、メッセージをしっかりと発信できる内容でとりまとめていく。

また、支える側の基盤強化や皆様との連携が子ども達、そして家庭への切れ目のないライフステージに即した支援に必要なので、子どもの貧困をしっかりと0%に近づけていくための対策を皆様と一緒に進めていきたい。引き続き協力をお願いしたい。本日は誠にありがとうございました。

以上